

図書館サポーター制度の導入

阪南市

○ 取組の概要

住民のまちづくりへの意欲を市政に活用していくため、ボランティアで構成する図書館サポーター制度を導入

○ 阪南市の概要



阪南市の概要

県庁所在地

● 大阪府阪南市尾崎町 35-1

人口

● 59,469人

※H17.3.31現在（住民基本台帳人口）

○取組について

1. 取組の背景

- ・昨今、少子高齢化が進行していく中、当市も例外ではなく高齢化が急速に進行してきている。定年を迎えてまだまだ元気な方々や、何か地域で役立つことがしたいと考えているがその方法が分からぬ方々がたくさんおり、そういう中で阪南市では「市民との協働」を市民に提言してきた経緯もあり、図書館としてもそういうニーズに答えていく方策を検討していた。
- ・また、昨今の経済情勢を反映し阪南市では、平成14年9月に「阪南市財政再建実施計画」を策定し、事務事業評価システム導入により施策の抜本的な見直しを図るなど、行財政改革の取組を進めている。図書館では事業費の削減が求められてきている中で、事業の縮小ではなく経費のかからない方法で、利用者満足度をどのように向上させていくかを考えている。図書館利用者の輪を広げ、親しまれる図書館を目指し、広く市民に阪南市立図書館を周知できればと考え、生涯学習の一環として図書館サポーター事業を実施したものである。

2. 取組の具体的な内容

<取り組みの具体的な内容>

- ・事業開始時の経緯は以下の通り。

平成15年4月 図書館サポーターの導入決定

平成15年6月 サポーターの募集開始

平成15年6月 説明会開催

平成15年7月 活動開始

- ・図書館サポーターの導入により、これまでにできなかつたさまざまな取組が可能になった。具体的には以下のような取組を実施した。

- ①児童書コーナーの壁面スペースに装飾を作成した。四季折々の装飾や詩やわらべうたを題材にした装飾を作成した。
- ②四季折々の生け花の飾りつけを行っている。
- ③本の修理及び装備の充実を図っている。
- ④開館前の本の配架を行っている
- ⑤図書館サポーターの手により、本・雑誌リサイクルフェアの補助を実施している。

<導入と活動の実績>

- ・ 参加は個人単位、平成 15 年度は 18 名、平成 16 年度は登録 28 名である。

* 導入実績

16 年度 1 月末参加人数（延べ）	配架	448 名
	修理装備	86 名
	壁面装飾	31 名
	リサイクル補助	11 名

* 活動実績

壁面装飾年間	9 枚
修理本	1040 冊
装備本	47 冊

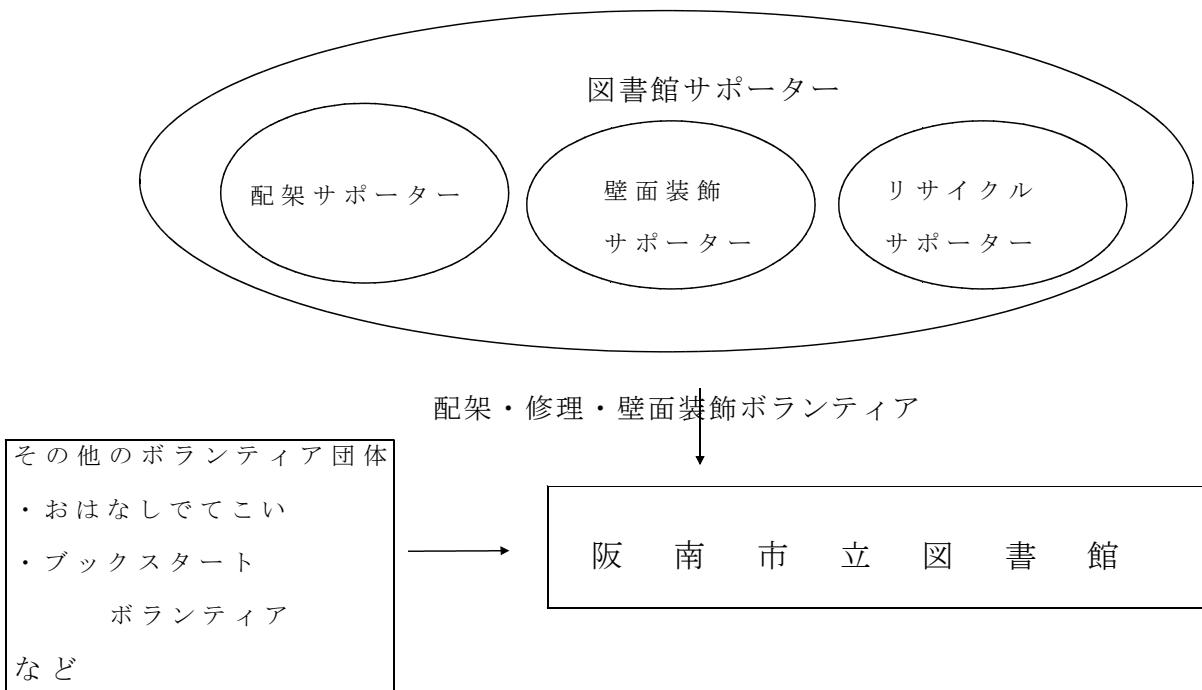
3. 取組にかかる事業費

- ・ 本制度の導入のために必要となった新たな事業費はボランティア保険加入のための保険料 1 名 500 円（平成 16 年度総額 12,500 円）の負担のみで、他には特に事業費はない。

4. 取組の体制

- ・ 図書館サポーターは現在個人での参加となっており、個々の方々の連携は取れていない状態であり、グループを組織しようといった動きは今のところ見られない。今後はより多くの人々で広く図書館業務を支えていただく体制を整え、図書館を通じて活動の輪を広げられる組織としていきたい。
- ・ 行政としては、直接は図書館がまとめ役をしており、事業内容についても図書館が担当司書を配置し活動をサポートしている。また、平成 16 年 4 月に市民活動支援課が設置され、NPO・ボランティア活動全体をサポートする体制を整備している。
- ・ 市民活動支援課と協調して図書館サポーターの組織化が必要かどうかについて検討していきたい。

図 図書館サポーターと他の主体との関係



出典) 阪南市立図書館資料

5. 取組の成果

- ・図書館の雰囲気作りや、書架に整然と並んだ資料など、市民に気持ちよく図書館を利用させていただいている。
- ・サポーターの方々を通じ、広く図書館の案内や利用促進に繋がっている。図書館サポーターとして活動していることで、今まで以上に図書館に親しみを感じ、図書館や社会に貢献している充実感を得ていただいていること、口コミで他の方々に声をかけていただき、その方々からの問い合わせもあり図書館に関心を持っていただく機会となっている。
- ・配架や修理している中で、新たな本との出会いがあったり、色々な棚に配架するため図書館内のことについて詳しくなったり、読書量が増えるといったことがあり、参加者は図書館サポーター事業に参加することで得られる充実感や満足感を得られていると考えられる。
- ・サポーターに各種の活動をしていただくことにより職員の業務が軽減され、その軽減された時間をレファレンス等の利用者サービスの充実に当てることができ、司書本来の業務に専念することが可能となってきている。

6. 今後の課題

- ・まだ始まったばかりの事業で、参加者・図書館とも手探りで行っている状態のため、図書館サポーターが広く認知されている状況ではない。多様な能力

- ・技能をお持ちの方々が何かをしたいと考えておられ、そういう方々の望まれるボランティア活動とは何かを的確に把握し、事業展開をしていかなくてはならない。特に成果品の見えにくいものや単純作業などは達成感や満足感が得られにくく、長く続けていただくための工夫や働きかけが必要である。
- ・将来的に図書館としてどのようなサポートが出来るのか、図書館と市民の共働で事業を行う範囲は何処まで可能かを今後検討していきたい。また利用者や市民のみなさんに目に見える形で図書館サポーター事業のご紹介できればと考えている。